

**(羽柴)豊臣秀吉(木下藤吉郎) 武将。中世を破壊した信長の後を受けて<全国統一>、近世の礎を築くも、朝鮮侵攻で破綻。**

とよとみひでよし

天文法華の乱1536 = 尾張国中村で、織田信秀に仕えた足軽木下弥右衛門の子に生まれた。非人の出ともいわれ、幼名は不明。

..... 1540 = 4歳：弟(のちの秀長)が誕生。

**鉄砲伝来**・ 1543 = 7歳：父弥右衛門が死去、母が浪人中の茶坊主竹阿弥と再婚し、光明寺の小僧となる。

..... 1545 = **9歳**：

この間、放浪の旅に出、様々な職業を体験、大工集団とも交流する。

**ザビエル来日**1549 = 13歳：

織田信長登場1551 = 15歳：信秀が死去して家臣団が動揺たため、遠江の松平之綱に仕えたが、

川中島の戦始1553 = 17歳：故郷に戻り、

..... 1554 = **18歳**：**織田一族内で主導権を握りつつあった信長の草履取りとなる。**

信長から評価されるようになり、

**桶狭間の戦**・ 1560 = 24歳：この頃、弟(秀長)を最初の家来とし、以後、補佐役として、出世に邁進、

川中島最激戦1561 = 19歳：弓組頭浅野長勝の養女ねね(のち北政所)と結婚。

大村長崎開港1562 = 26歳：**台風で清洲城の堀が倒壊した際、進んで修理を引受け、御普請奉行として大成果を挙げ、**

大村純忠受洗1563 = **27歳**：

將軍義輝自刃1565 = 29歳：**美濃攻略の端緒となる鵜沼城大沢基康の投降を招くなど、才覚で、出世の糸口をつかみ**

..... 1566 = 30歳：**\*豊股城を与えられ、一気に築城して"一夜城"の伝説が生まれ、**

岐阜築市楽座1567 = 31歳：**信長の天下どりの契機になった、美濃国国主の稲葉城斎藤龍興攻めに戦功を挙げて飛躍、**

**織田信長入京**1568 = 32歳：信長の命で、斎藤龍興の旧臣で名軍師竹中半兵衛を三顧の礼をもって迎える。許されて、信長の父信秀にちなんで**秀吉と名乗り、京を去る信長から、京都奉行としての権限を与えられ、公家との関係も始まる。**

石山合戦始・ 1570 = 34歳：姉川の戦で、半兵衛が軍師を務めている。**以後も、才覚と戦功により次々累進、**  
この間、浅野長勝の養子で、妻ねねの義弟浅野長政が臣従、のち、五奉行の一人、最大の大名になる。

三方原の戦・ 1572 = **36歳**：

**室町幕府滅亡**1573 = 37歳：信長に急襲されて敗れた足利義昭を毛利方に引き渡す役を担い、毛利方の使僧安国寺恵瓊と知合う。**朝倉・浅井連合軍討滅の主役となり、浅井氏を滅亡させて、北近江3郡を与えられて、大名になるに至るとともに、筑前守に任ぜられ、織田家筆頭家老の柴田、丹羽両將軍の姓から一字ずつ得て、羽柴姓を名乗り、**  
長島一揆鎮圧1574 = 38歳：**今浜城を建設、長浜城と改名して居城し、領民の安定に努めるとともに、信長からつけられていた竹中半兵衛や蜂須賀小六らに知領を与えて、自らの家臣団にして行き。鉄砲鍛冶国友藤二郎を代官にする。**

長篠の戦・ 1575 = 39歳：

安土城築城・ 1576 = 40歳：

安土築市楽座1577 = 41歳：毛利家の依頼で、播磨・但馬に出陣、簡単に制して貸しをつくり、以後、毛利家との取次役になる。

上杉謙信没・ 1578 = 42歳：**中国征伐の司令官に任命され、中国十カ国切り取り次第の破格の特権を与えられ、ついに柴田勝家に並ぶ信長家最高の重臣になり、独り息子(養子説も)の秀勝が夭折したのを忘れないかのように奮戦、**

石山合戦終・ 1580 = 44歳：**播磨三木城を兵糧攻めにして陥落させ、別所長治を自尽に追い込む。姫路城の大改築。**

バリエーノ謁見 1581 = **45歳**：**吉川経家が守備する因幡鳥取城も兵糧攻めで陥落させ、**

**本能寺の変**・ 1582 = 46歳：**\*備中高松城を水攻め、毛利氏との決戦を目前にした時、信長暗殺の報に接するや、直ちに毛利氏と講和を結んで兵をかえし、山崎の戦で明智光秀を破った。その直後に清須会議で信忠(信長の長男)の遺児三法師(秀信)を織田家の跡目に据え、みずから後見人となった。**

賤ヶ岳の戦・ 1583 = 47歳：**この強引な措置に反対する宿老の柴田勝家と近江賤ヶ岳に戦い、越前北ノ庄で滅ぼした。また織田信孝(信長の三男)を尾張内海に自殺させ、主導権を握った。同年かつての石山本願寺跡に大坂城を築き、畿内先進地帯を権力的に掌握し、全国制覇にのり出した。この時、淀殿を庇護し、やがて寵愛するようになる。**

長久手の戦・ 1584 = 48歳：**織田信雄(信長の次男)・徳川家康の連合軍と小牧・長久手に戦い、外交的手段で家康を臣従させる。**

豊臣秀吉関白1585 = 49歳：**関白に任官し、古代的な権威をかりて身分制社会の頂点に立ち、(大徳寺総見院で、大茶会を催す)**

秀吉太政大臣1586 = 50歳：**太政大臣となり豊臣姓をうけた。四国の長宗我部氏を下したのち、**

バネノ追放令 1587 = 51歳：**九州の島津氏を平定し、新たな国分を行う。千利休・津田宗及らを茶頭に、北野大茶会を催す。**

刀狩海賊取締 1588 = 52歳：**京都に造営した聚楽第に後陽成天皇を迎えるなど朝廷に接近し、延暦寺や春日社の復興に力をかけて仏法の庇護者を自認する態度をとった。他方では紀伊の根来、雑賀一揆を鎮圧し僧侶の武器を没収し、公家・寺社の荘園を改めて所領の確認を行った。正妻北政所に子が無く、側室らにも全くできなかったことから、秀吉はいわゆる男性の不妊症であったと考えられ、おそらく自ら出身の部落の男子を利用して、**

..... 1589 = 53歳：**この年、淀殿に長男鶴松が誕生するが、**

**秀吉全国統一**1590 = **54歳**：**\*小田原の後北条氏を滅亡させ、さらに奥羽の諸大名も服属させ、ここに全国統一を達成した直後、**

土農工商公布1591 = 55歳：**鶴松が夭折し、実母も死去して、心境一変の上、完璧な補佐役だった弟秀長が病死して、歯止めが無くなると、まず、千利休を自刃させ、**

**文禄の役**・ 1592 = 57歳：**かねてから服属を求めていた明国を討つため朝鮮出兵を令し、全国の大名を肥前名護屋に集結させた。緒戦の勝利に気をよくした秀吉は、後陽成天皇を北京に移し、その関白職に秀次をつけ、日本の帝位は若宮(皇子良仁親王)か八条宮に継がせ、その関白には羽柴秀保か宇喜多秀家をあてるといった、日本・中国・朝鮮にまたがる三國割計画を呈示した。この間、秀吉にやはり極秘に部落の男子を利用して秀頼が誕生、表向きはあくまでも実子であったことから、秀次との関係が不和となり、**

関白秀次事件1595 = 59歳：**秀次は高野山で切腹させられた。しかしこの計画は朝鮮民衆の義兵組織によって碎かれ、明の援軍の到着によって補給路が絶たれた。明との和議交渉に際し、秀吉は朝鮮の南半分の割譲や勘合貿易復活、明の皇女を天皇の后とすることなどを要求した。この間、伏見城造営開始。この交渉は決裂し、**  
**慶長の役**・ 1597 = 61歳：**再び朝鮮へ兵を送った。戦局の膠着化にともない大名間の対立は深刻化し、農民は兵糧米調達のため過重な負担を強いられるなど、国内は重苦しい雰囲気につつまれた。**

豊臣秀吉没・ 1598 = 62歳：**\*醍醐で華やかな花見を催すが、心身の衰えが激しくなり、没した。**